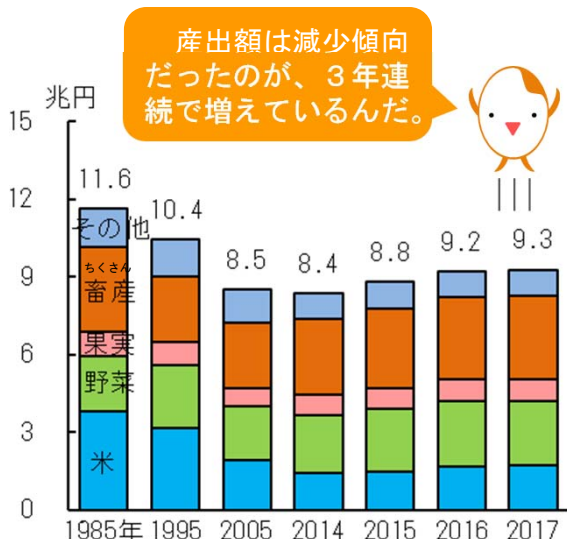


私たちの食生活を支える 日本の農業を調べてみよう!

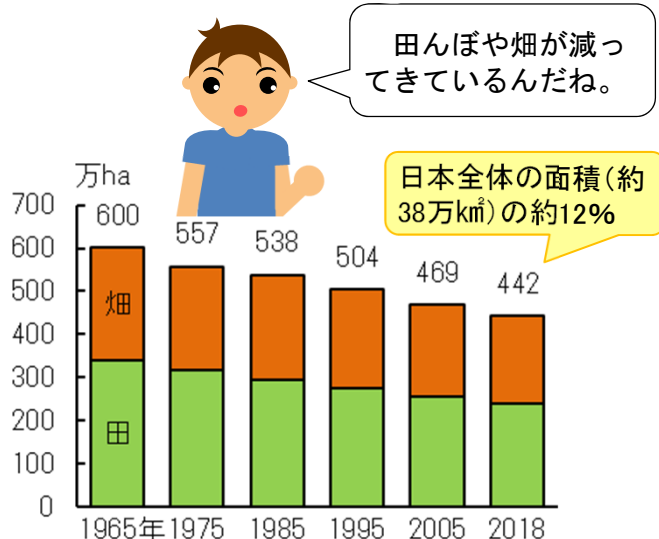
日本の農業はどのように変わってきたのかな?

農業の産出額、田や畑の面積の移り変わりをしてみましょう。

<農業の産出額の移り変わり>



<田畑別の面積の移り変わり>



農地を有効に使うために、どんな取組が進められているのかな?

農作業をやりやすくするために1つの畑や田んぼの面積を大きくしたり、田んぼで野菜も作れるように整備したりしています。

小さな田んぼの集まり

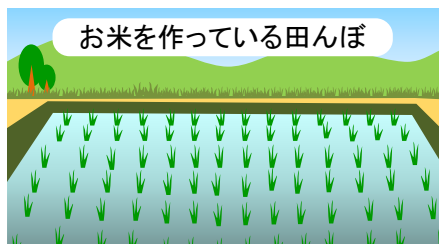


小さな田んぼをまとめる

整備した大きな田んぼ



お米を作っている田んぼ



水はけをよくする

野菜を作れるようにした田んぼ

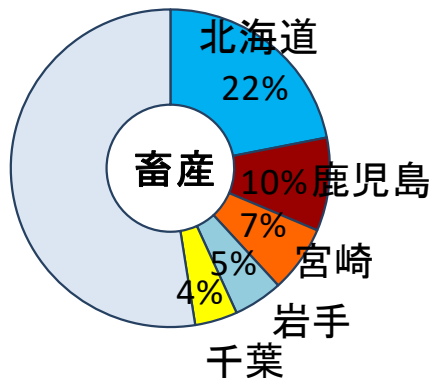
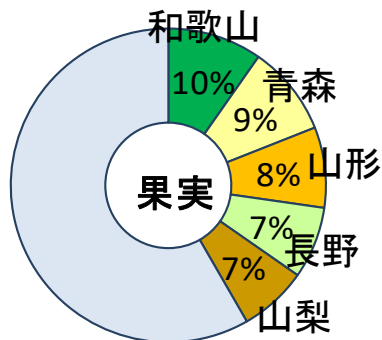
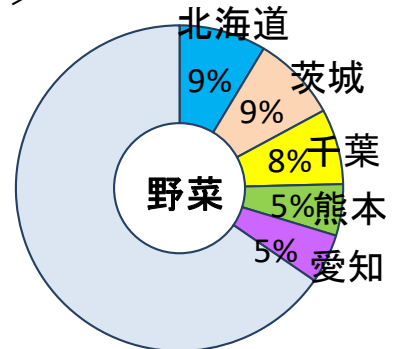
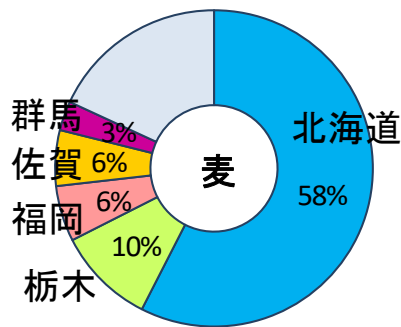
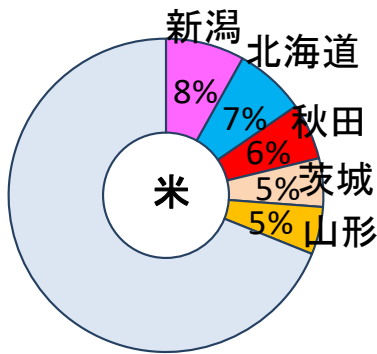


面積を大きくすると、大きなトラクターを使えるから農作業の時間を減らせるよ。

お米の消費量が減って、お米が余るようになったから、田んぼで野菜を作れるようにする必要があるのね。

全国各地では、どのような農畜産物が生産されているのかな？

＜農業の産出額の都道府県別割合（2017年）＞



ぼく
僕の住んでい
る地域で何が作
られているか調
べてみよう。



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

日本で一番農業の生産額が多い都道府県はどれかな？
①北海道、②鹿児島、③新潟
(答えは裏表紙)



農産物（食品）の安全を保ち、より良い農業生産を進めているよ！

使用した農薬や肥料の量などを記録したり、廃棄物を正しく処理するなど、より良い農業生産を実現する取組（GAP）が広がっています。

GAPの取組は、食品の安全のほかにも、環境の保全、農作業中の事故防止、経営の改善にも役立つよ。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、世界の選手達にGAPに取り組んでいる農場の農作物を食べてもらうんだよ。

GAPに取り組んで、より良い農業をすると、外国の人にも信頼されて、輸出しやすくなるのね。

農業高校の生徒によるGAPの取組

りんごを作っている農業高校の生徒達は、より良い農業生産や輸出を実現するためには、GAPが必要だと考えました。そこで、肥料や農薬をいつどのくらい使ったかを記録する方法、安全に農作業を行う方法などをより良いものに変えて、日本の高校で初めてGLOBAL G.A.P. 認証（海外でも認められる取組）を取りました。



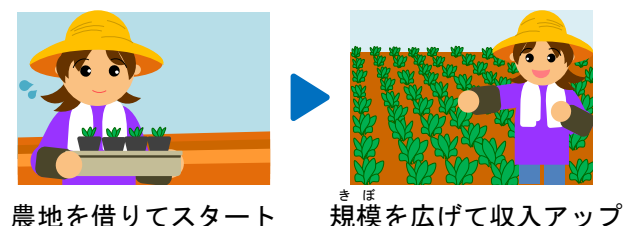
農業で働く人たちは、どうやって働き始めたのかな？

新しく農業を始めた人は5万6千人（2017年）で、農家の出身でなくても農業を始める例もあります。

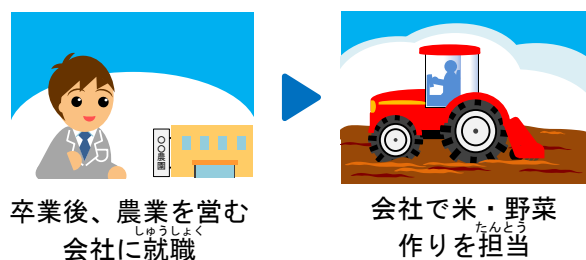
例 1 親から農業経営を引き継ぐ



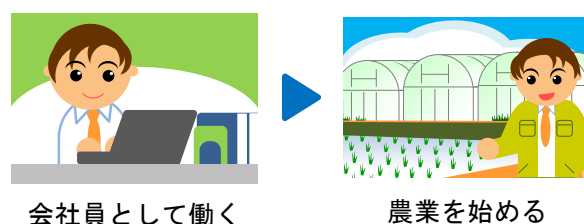
例 2 自分で農業経営を始める



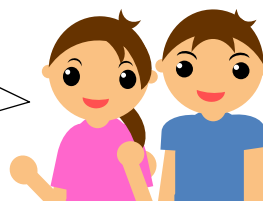
例 3 農業を営む会社に就職する



例 4 他の職業から農業に転職する



農家でなくても、農地を借りたり、農業を営む会社に就職したりして、農業を始めることができるんだね。



実際の取組を見てみよう！

自分で農業経営を開始

女性が農業経営で活躍
（花の栽培農家）

子育てはのんびり田舎でしたいと思い、家族で花の栽培を始めました。花を買う人は女性が多いことから、女性の視点を活かした経営をしています。また、作業を楽にするため、機械を利用するなどの取組をしています。



農業を営む会社

みんなが働きやすい職場づくり
（トマトを栽培している会社）

トイレや更衣室、シャワーなどの設備を充実させ、働く人みんなが気持ちよく働ける職場づくりを進めています。また、一人一人の働く時間を短く区切るなど、さまざまな人が働けるように工夫しています。



日本の農業は、こんなことにも挑戦しているよ!

農業者は、農作物を作る以外にも、さまざまな取組に挑戦しているよ!

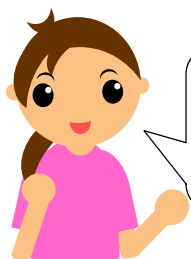
農業者や農業を行っている会社では、収入を上げるために、生産した農産物の加工、農産物や加工品の直売所での販売、観光農園や農家レストランの運営にも取り組んでいます。



農作物をそのまま売るよりも、加工したり、レストランで提供することで、利益の増加につながるんだ。

加工・販売の取組例

牛乳を生産・販売している会社が、ヨーグルトを開発し、製造・販売しています。



私も観光農園で新鮮ないちごを食べてみたいな。

観光農園の取組例

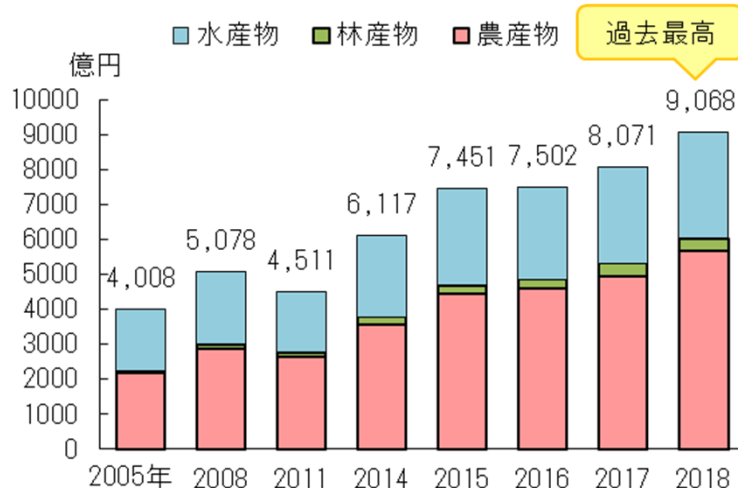
いちごを生産する農業者が観光農園を開き、多くの外国人旅行者を受け入れています。



日本の農林水産物・食品の輸出が増えています!

日本の農林水産物・食品の輸出額が過去最高を記録しました。海外で日本食の人気の高まっており、日本食レストランも世界に広がっています。

<農林水産物・食品の輸出額の移り変わり>



資料：財務省「貿易統計」を基に作成

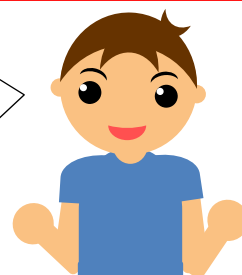
米の輸出

お米やパックごはん、お米のお菓子などの輸出にも力を入れています。海外では、おにぎりも人気です。



鶏卵、さつまいも、いちご、牛肉等の輸出が特に増えているんだ。

日本食が好きな人が増えているから、日本の農林水産物や食品を輸出するチャンスだね。



ちいき 地域の特性をもつ農林水産物や食品を調べてみよう！

日本には、地域の伝統に育まれ、生産地の気候・風土・土などによって生み出された味や形、香りなどをもつ農林水産物や食品がたくさんあります。このような産品を偽物から守るために、地理的表示（GI）保護制度という仕組みがあります。



はなごしよかき
こおげ花御所柿（鳥取県）



おくくじ
奥久慈しゃも（茨城県）



たいしゅう
対州そば（長崎県）



えちぜん
越前がに（福井県）



なんごう
南郷トマト（福島県）

ジエーアイ
GIマークが
付いている
産品はGIに登録
されているよ。



地理的表示
のGIマーク



ロボット技術やICT（情報通信技術）を活用したスマート農業

農業で働く人は減少し、高齢化も進んでいます。そこで、農作業にロボット技術やICT（情報通信技術）を使うスマート農業の研究開発や実用化が進んでいます。スマート農業によって、これから農業を始める人が取り組みやすくなったり、農作業の負担が軽くなり、女性や高齢者でも働きやすくなります。



しゅうかく
自動的にトマトを収穫するロボット



ほじょ
人力作業を補助するアシストスーツ



無人で動かせるトラクター

このドローンは、上空から撮った画像をもとにして、害虫がいるところにだけピンポイントで農薬をまくんだ。



農薬をまくこともできる
ドローン（無人航空機）